

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	音楽	学年	第1学年
----	----	----	------

【教科の目標】

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学 期	4	思いを込めて合唱しよう。 ・校歌 ・その先へ	○正しい姿勢や発声法を理解し、無理のない自然な響きの声で歌う。 ○変声期を理解する。 ○新しい仲間とともに、明るい声でのびのびと歌う。
	5	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう。 ・春	○音楽の諸要素を理解し、それらを関連付けながら鑑賞する。 ○ソネットを手がかりにして、曲の雰囲気を感じ取って鑑賞する。 ○弦楽合奏の響きを味わって鑑賞する。
	6 7	曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう。 ・校内合唱コンクール 課題曲・自由曲	○パートの役割や旋律の重なり合いを感じ取り、響きのある声で表現する。 ○表現したいイメージを伝え合い、全員で一つの合唱を作り上げる。 ○表現に必要な音楽的な知識を理解する。
	8 9	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう。 ・浜辺の歌 ・赤とんぼ	○歌詞の内容や音楽の構造の特徴を捉え、曲想との関わりについて理解する。 ○曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて、どのように歌うか自分なりに表現を工夫して歌う。
2 学 期	10	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう。 ・魔王	○物語の内容を音楽でどのように表現しているかについて聴き取り、楽曲の魅力を味わう。
	11	箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう。 ・さくらさくら ・六段の調べ	○日本の伝統音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。 ○箏の音色や奏法、旋律に興味をもち、基本的な奏法を身に付けて演奏する。 ○箏の奏法による音色の違いに関心をもち、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
	12	音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう。 ・リズムゲーム ・リズムアンサンブル ・リズムチャレンジ	○リズムパターンを組み合わせ、リズムアンサンブルを創作する。
	1	アジアの諸民族の音楽	○音楽の特徴や声、楽器の音色の特徴を感じ取って鑑賞する。 ○音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考える。

2	日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう。 ・越天楽	○音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。 ○管絃で用いられる楽器個々の音色と、合奏全体の響きを味わう。
3	曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう。 ・3年生を送る会で歌う曲	○曲の構成やパートの役割、強弱などを創意工夫して表現する。 ○1年間のまとめにふさわしい表現力で合唱する。

### 【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組(発言等)</u>、<u>小テストなど</u></p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け歌唱、器楽、創作で表している。</p> <p>⇒<u>実技テスト</u>、<u>授業での取組</u>、<u>提出物など</u></p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p> <p>⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組(発言等)</u>、<u>提出物</u>、<u>実技テストなど</u></p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>⇒<u>授業での取組</u>、<u>自己評価カード</u>、<u>提出物</u>、<u>小テストなど</u></p>

### 【学習へのアドバイス】

#### (1) 学習前の準備

忘れ物をしないようにしましょう。

#### (2) 授業では

実技を伴う教科なので、間違いや恥ずかしさを恐れずに、積極的に表現することが何より大切です。授業の中で練習を重ねていくうちに、技能を伸ばすだけでなく表現の幅が広がり、心も豊かになっていきます。また、感じたことを音だけでなく言葉を用いて表現することも重要です。自分の考えを持つことも、友達の考えを参考にすることも大切にしながら、表現にいかしていきましょう。

先生の話やクラスメイトの発表を聴く時と、音を出して表現する時のメリハリを大切にしましょう。

#### (3) 家庭では

家庭学習と身構える必要はありませんが、普段からいろいろな音楽に触れ、“聴く耳”や“感性”を磨くようにしましょう。そういった積み重ねが表現に生かされ、生活を豊かにします。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	音楽	学年	第2学年
----	----	----	------

【教科の目標】

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学 期	4	パートの役割を理解して、歌唱表現を工夫しよう。 ・校歌 ・野外活動で歌う曲	○新しい仲間とともに、明るい声でのびのびと歌う。
	5 6 7	曲想と曲の構成を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう。 ・校内合唱コンクール 課題曲・自由曲	○パートの役割や旋律の重なり合いを感じ取り、響きのある声で表現する。 ○表現したいイメージを伝え合い、全員で一つの合唱を作り上げる。 ○表現に必要な音楽的な知識を理解する。
	8	曲想と音楽構造の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう。 ・交響曲第5番	○動機の繰り返しや変化に注目し、構成の美しさやオーケストラの響きを味わいながら観賞する。 ○曲想と音楽の諸要素との関わりについて理解する。
	9	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう。 ・夏の思い出 ・荒城の月	○言葉と旋律、リズムがどのように結びついているかを理解し、表現の工夫をする。 ○日本語の持つ言葉の美しさを大切にしながら、歌詞を生かした歌い方を工夫する。
2 学 期	10	日本の伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう。 ・荒城の月	○箏の音色やいろいろな奏法、旋律に興味をもち、基本的な奏法を身に付けて演奏する。
	11	曲想と音楽構造の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう。 ・フーガト短調	○次々と現れる主題に注目し、旋律が重なり合い、絡み合って発展していく音楽の面白さを味わいながら観賞する。 ○パイプオルガンの豊かな響きを感じ取る。
	12	音の重なり方や反復、変化を理解して、創作表現を工夫しよう。 ・Let's Create!	○反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解する。 ○全体の構成を考え、反復、変化、重なり方を工夫しながら自分たちのオリジナルアンサンブルを創作する。
	1	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう。 ・勧進帳	○歌舞伎の特徴や魅力を感じ取りながら鑑賞する。 ○長唄の特徴を感じ取り、その良さを味わう。 ○長唄「勧進帳」を模倣しながら歌い、その声や旋律の動きの特徴について感じ取る。

2 3	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう。 ・3年生を送る会で歌う曲 ・次年度合唱コンクールの課題曲	○歌詞の内容や語感、旋律の動き、強弱の変化に気を付けながら、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。
--------	---	---

### 【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組</u>（<u>発言等</u>）、<u>小テスト</u>など</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け歌唱、器楽、創作で表している。 ⇒<u>実技テスト</u>、<u>授業での取組</u>、<u>提出物</u>など</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 ⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組</u>（<u>発言等</u>）、<u>提出物</u>、<u>実技テスト</u>など</p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ⇒<u>授業での取組</u>、<u>自己評価カード</u>、<u>提出物</u>、<u>小テスト</u>など</p>

### 【学習へのアドバイス】

#### (1) 学習前の準備

忘れ物をしないようにしましょう。

#### (2) 授業では

実技を伴う教科なので、間違いや恥ずかしさを恐れずに、積極的に表現することが何より大切です。授業の中で練習を重ねていくうちに、技能を伸ばすだけでなく表現の幅が広がり、心も豊かになっていきます。また、感じたことを音だけでなく言葉を用いて表現することも重要です。自分の考えを持つことも、友達の考えを参考にすることも大切にしながら、表現にいかしていきましょう。

先生の話やクラスメイトの発表を聴く時と、音を出して表現する時のメリハリを大切にしましょう。

#### (3) 家庭では

家庭学習と身構える必要はありませんが、普段からいろいろな音楽に触れ、“聴く耳”や“感性”を磨くようにしましょう。そういった積み重ねが表現に生かされ、生活を豊かにします。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	音楽	学年	第3学年
----	----	----	------

【教科の目標】

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学 期	4	日本の歌のよさや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう。 ・花	○言葉と旋律、リズムがどのように結びついているかを理解し、表現の工夫をすることができる。 ○日本語の持つ言葉の美しさを大切にしながら、歌詞を生かした歌い方を工夫することができる。
	5 6 7	全体の響きや各声部の役割を生かして、歌唱表現を工夫しよう。 ・校内合唱コンクール 課題曲・自由曲	○パートの役割や旋律の重なり合いを感じ取り、響きのある声で表現する。 ○表現したいイメージを伝え合い、全員で一つの合唱を作り上げる。 ○表現に必要な音楽的な知識を理解する。
	8	音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう。 ・ブルタバ ・ボレロ	○標題のイメージと音楽を形作る要素（音色、速度、旋律、強弱）との関わりを考えながら観賞する。 ○作曲者が記した標題や解説、当時の時代背景から、作品に込められた思いを感じ取る。
	9	曲種に応じた発声を生かして、表現を工夫しよう。 ・サンタルチア	○歌詞の内容と曲想との関わりを考え、曲にあった歌唱表現を工夫して歌う。
	2 学 期	10	音階の特徴及び音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう。 ・My Melody
11 12		ギターを演奏しよう	○基本の奏法（アポヤンド・アルアイレ）を理解する。 ○運指と楽譜の見方を理解する。 ○1～3弦を使って、曲想にあった速度や音色を意識し演奏する。
1		日本の伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう。 ・能	○尺八や能の特徴や魅力を感じ取りながら鑑賞する。 ○尺八や能の音楽の特徴を感じ取り、その良さを味わう。 ○謡「敦盛」を模倣しながら謡い、その声や旋律の動きの特徴について感じ取る。
2 3		仲間とともに、表情豊かに合唱しよう。 ・卒業の歌	○歌詞の内容や語感、旋律の動き、強弱の変化に気を付けながら、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。

## 【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組</u>（<u>発言等</u>）、<u>小テストなど</u></p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け歌唱、器楽、創作で表している。 ⇒<u>実技テスト</u>、<u>授業での取組</u>、<u>提出物など</u></p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 ⇒<u>ワークシートの記述</u>、<u>授業での取組</u>（<u>発言等</u>）、<u>提出物</u>、<u>実技テストなど</u></p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ⇒<u>授業での取組</u>、<u>自己評価カード</u>、<u>提出物</u>、<u>小テストなど</u></p>

## 【学習へのアドバイス】

### （１）学習前の準備

忘れ物をしないようにしましょう。

### （２）授業では

実技を伴う教科なので、間違いや恥ずかしさを恐れずに、積極的に表現することが何より大切です。授業の中で練習を重ねていくうちに、技能を伸ばすだけでなく表現の幅が広がり、心も豊かになっていきます。また、感じたことを音だけでなく言葉を用いて表現することも重要です。自分の考えを持つことも、友達の考えを参考にすることも大切にしながら、表現にいかしていきましょう。

先生の話やクラスメイトの発表を聴く時と、音を出して表現する時のメリハリを大切にしましょう。

### （３）家庭では

家庭学習と身構える必要はありませんが、普段からいろいろな音楽に触れ、“聴く耳”や“感性”を磨くようにしましょう。そういった積み重ねが表現に生かされ、生活を豊かにします。